

# 山岳遭難の現状

2014年7月2日

出典：「平成25年中における山岳遭難の概況」  
警察庁生活安全局地域課

# 全国の発生状況

平成25年中の山岳遭難は

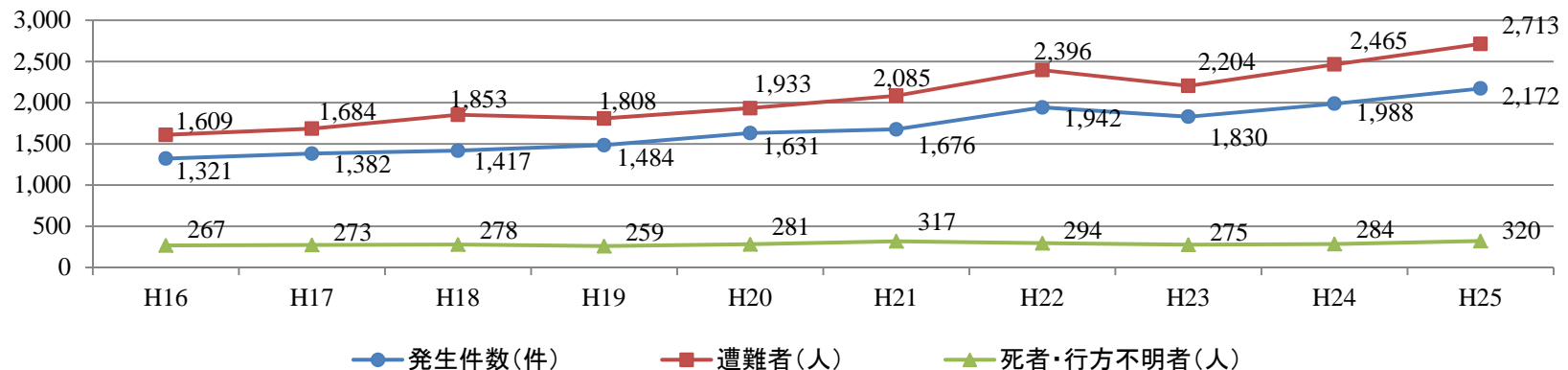
- 発生件数2,172件(前年対比+184件)
- 遭難者2,713人(前年対比+248人)
  - うち死者・行方不明者 320人(前年対比+36人)
  - 負傷者 1,003人(前年対比+76人)
  - 無事救助 1,390人(前年対比+136人)

であり、発生件数、遭難者、死者・行方不明者が、統計の残る昭和36年以降で最も高い数値となった。

過去10年間の山岳遭難発生状況をみると増加傾向にあり、平成16年と比較すると

- 発生件数 +851件(+64.4%)
- 遭難者 +1,104人(+68.6%)
- 死者・行方不明者 +53人(+19.9%)

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
発生件数(件)	1,321	1,382	1,417	1,484	1,631	1,676	1,942	1,830	1,988	2,172
遭難者(人)	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085	2,396	2,204	2,465	2,713
死者・不明者(人)	267	273	278	259	281	317	294	275	284	320

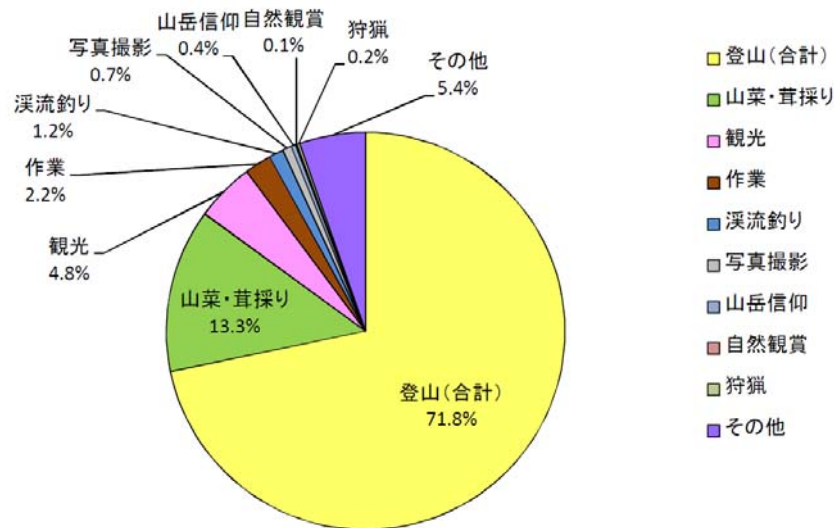


# 山岳遭難の特徴

## ■ 目的別山岳遭難の割合

全遭難者2,713人について、目的別にみると、登山（ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む）が71.8%と最も多く、次いで山菜・茸採りが13.3%を占めている。

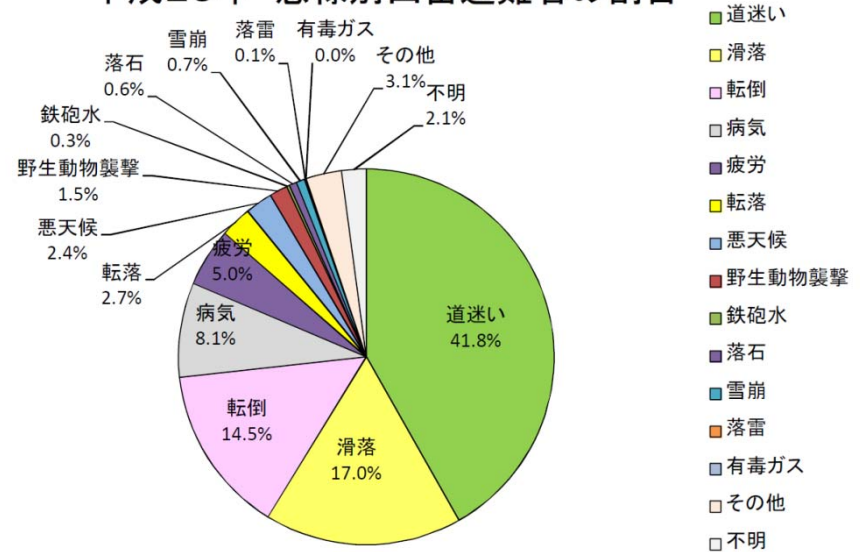
平成25年 目的別山岳遭難者の割合



## ■ 態様別山岳遭難の割合

道迷いが41.8%と最も多く、次いで滑落が17.0%、転倒が14.5%を占めている。

平成25年 態様別山岳遭難者の割合

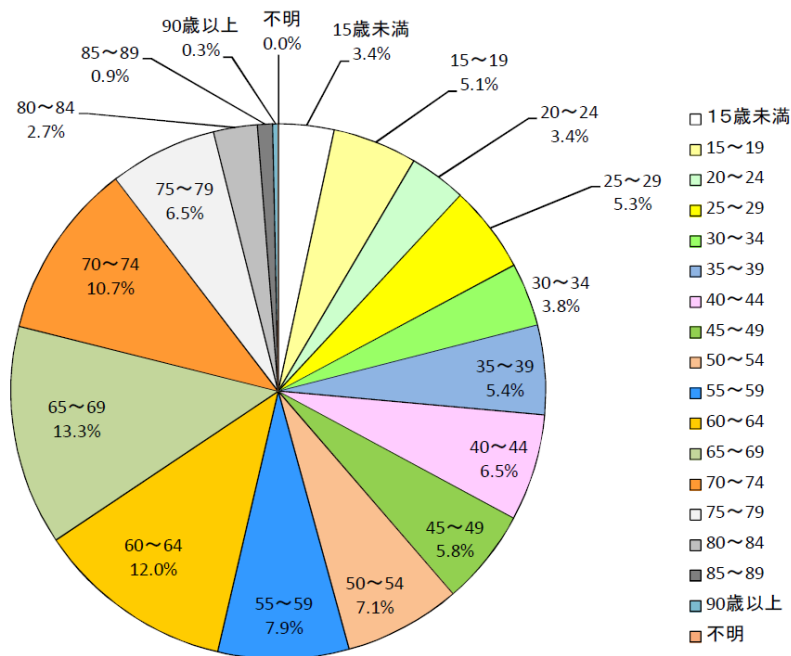


# 山岳遭難の特徴

## ■年齢層別山岳遭難の割合

40歳以上の遭難者が1,996人と全遭難者の73.6%を占めており、このうち、60歳以上が1,258人と全遭難者の46.4%を占めている。また、40歳以上の死者・行方不明者が293人と全死者・行方不明者の91.6%を占めており、このうち60歳以上が204人と全死者・行方不明者の63.8%を占めている。

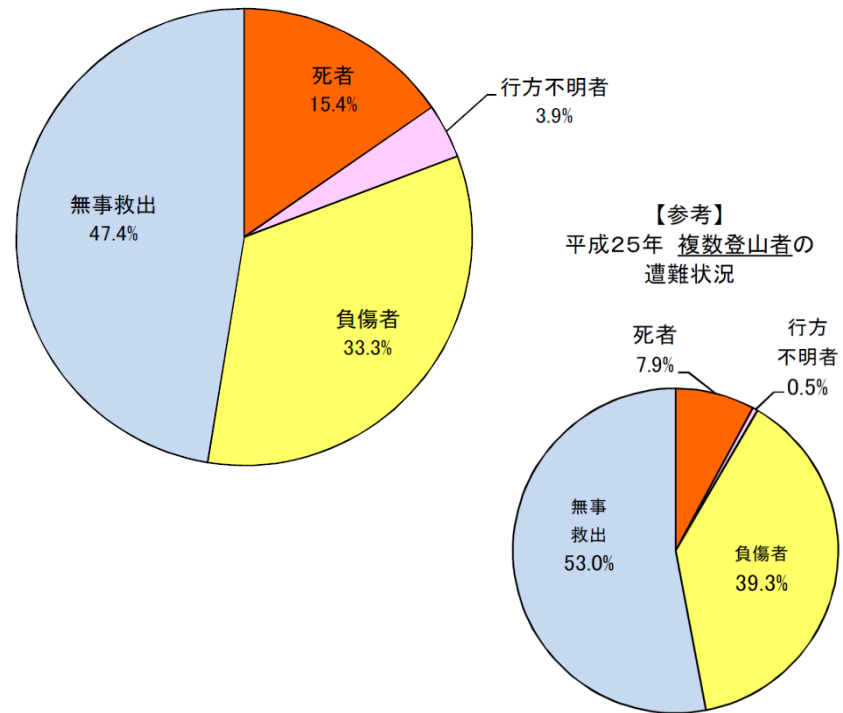
平成25年 年齢層別山岳遭難者の割合



## ■単独登山者の遭難状況

単独登山における死者・行方不明者は164人で、全単独遭難者の19.2%を占めており、複数(2人以上)登山における遭難者のうち死者・行方不明者が占める割合(8.4%)と比較すると約2.3倍となっている。

平成25年 単独登山者の遭難状況



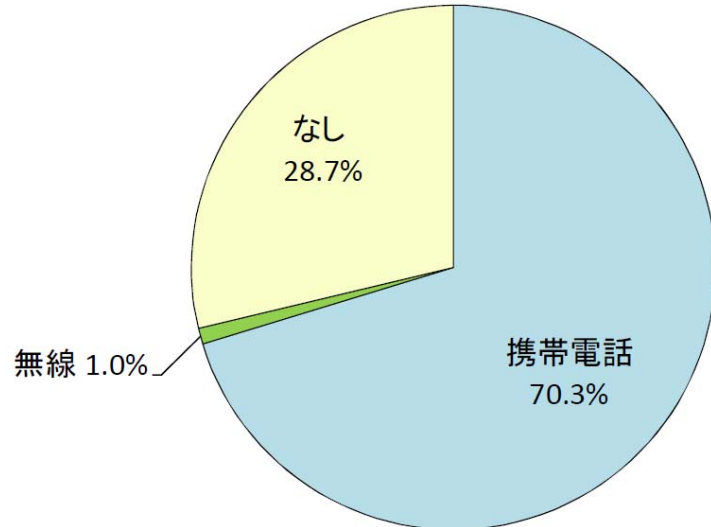
## 山岳遭難の特徴

### ■通信手段の使用状況

全発生件数2,172件の71.3%が遭難現場から通信手段(携帯電話、無線(アマチュア無線を含む。))を使用し、救助を要請している。

今後も、携帯電話による救助要請の増加が予想されるが、携帯電話は通話エリア内での方が一の通話手段として有効であるものの、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意が必要である。

平成25年 通信手段の使用状況



※ 携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。

### ■山岳遭難の未然防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を未然に防ぐため、登山に当たっては、以下のような点に留意が必要である。

#### ○ 登山計画の作成、提出

気象条件、体力、体調、登山の経験等に見合った山を選択し、登山コース、日程、十分な装備、食料等に配慮して、余裕のある、安全な登山計画を立てる。

単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

また、作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

#### ○ 危険箇所の把握

計画を立てるとき、滑落等の危険箇所を事前によく調べる。

#### ○ 的確な状況判断

視界不良・体調不良時等には、滑落、道迷い等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

#### ○ 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

#### ○ 道迷い防止

地図、コンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

## 参考資料(現状と背景)

中高年層を中心とした登山人気は、健康志向の高まりを背景に、依然高いレベルを保っている。ピクニックなどのアウトドアと登山の参加人数を表に示す。

参加人口(万人)										
年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
ピクニック、ハイキング、野外散歩	2,750	2,750	2,620	2,620	2,630	2,470	3,690	3,380	2,330	2,150
登山	650	650	660	550	570	590	1,230	1,070	810	860

出典:公益財団法人 日本生産性本部 『レジャー白書2013 - やめる理由・始める理由 余暇の道筋 - 』,2013,  
余暇活動の参加人数の推移 より抜粋